

2025年
3月25日(火) - 9月28日(日)

書き続けた論文

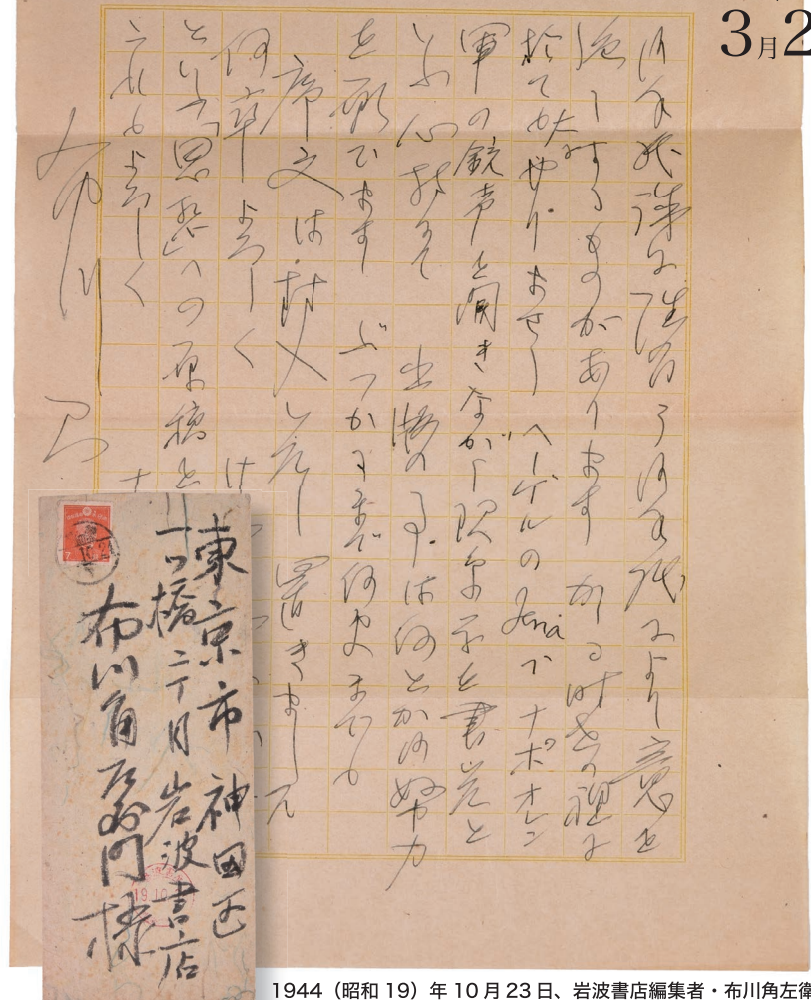
〔西田幾多郎没後80年特別展〕

―西田幾多郎の終焉―



鎌倉の自宅前で、幾多郎と妻 琴

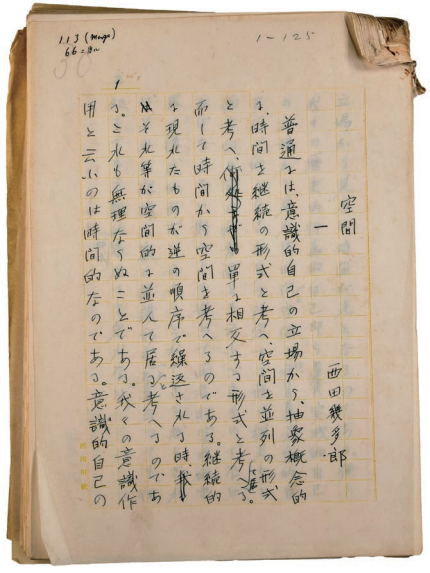
御手紙誠に難有う 御手紙により意を強うするものがあります
かゝる時世のうちに於ても大にやりませう ヘーゲルの Jena で
ナポレオン軍の銃声を聞きながら現象学を書いたといふ心持にて
出版の事は何とか御努力を願ひます ぶつかるまで何処までも



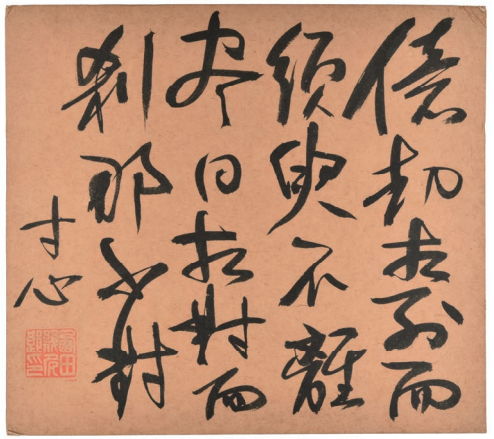
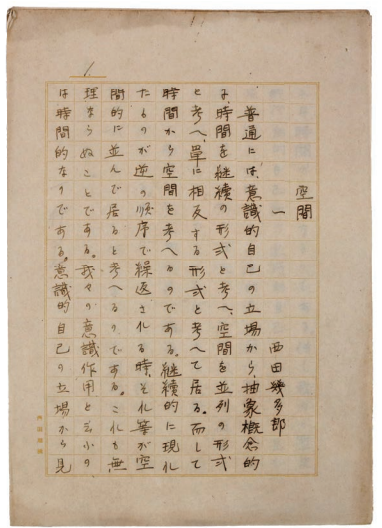
1944 (昭和 19) 年 10 月 23 日、岩波書店編集者・布川角左衛門宛書簡



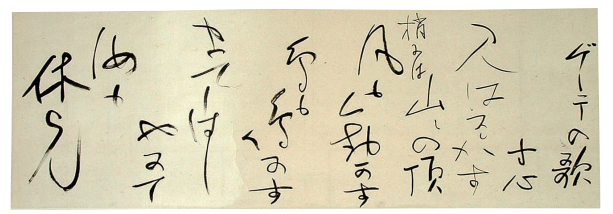
鎌倉の自宅*縁側で読書する西田幾多郎
*現・学習院西田幾多郎博士記念館 (寸心荘)



上「空間」西田幾多郎直筆原稿
右「空間」複写原稿
(京都大学文学研究科日本哲学史専修所蔵)
空襲で焼失することを恐れて、西田の直筆原稿を関係者が複写した。



西田幾多郎書「億劫相別而須與不離
终日相對而刹那不對」
大燈国師の句。論文「場所的論理と宗教的世界観」の中で、西田は「逆対応」についてこの句をひいて説明している。



西田幾多郎書「ゲートの歌」(個人蔵)
見はるかす 山々の頂 梢には 風も動かす 鳥も鳴かす まてしはし やかて 汝も 休らん
西田が訳したゲートの詩「旅人の夜の歌」(Wandrer's Nachtlied)の一節。哲学者九鬼周造の墓石側面にも同じ詩が刻まれている。